

# 天保期の深川

江東区深川江戸資料館

江戸時代も終わりに近い「天保」期。深川江戸資料館、深川庶民の町には天保12（1841）、13年頃の時が流れています。明治維新（1868年）から27年前の、この天保期に生きる深川の人々は、どのような出来事の中で暮らしていたのでしょうか。

## 1.天保の改革以前

天保はじめの頃の深川は、江戸初期からの開発で縦横に走る掘割、寺社に加え、木場材木問屋等の大店、武家屋敷などが町の中にもみられるようになりました。この様子は、富岡八幡宮の周辺を中心として、五渡亭国貞（二世歌川豊国）達の浮世絵、更に長唄・常磐津「巽八景」（天保10年）など、様々な分野で描かれ唄われました。

この賑わいの反面、天候不順が続き、天保4年（1833）から同7年にかけて全国的な飢饉になります。米価ははね上がり、天明飢饉時を上廻る百姓一揆、打ちこわしが各地で続発します。更に、大坂東町奉行所与力であった大塩平八郎の乱（天保8年）では飢饉の窮民救済と共に、政治の革新、「世直し」を掲げて、幕府や当時の人々に大きな衝撃を与えました。

この国内の混乱と同時に、アメリカ商船モリソン号江戸湾入航（天保8年）を契機とし、鎖国時の対外問題が幕府を中心として、この時期重くのしかかっていきます。

## 2.天保の改革

天保12年（1841）5月15日は十二代将軍徳川家慶、48歳の誕生日でした。この時、将軍から下された、「享保、寛政の改革の趣意を幕政を行うにあたり、従うように」との申し渡しが老中水野忠邦をはじめとする幕府要職に下され、天保の改革が幕明けとなります。

この改革の内容は、国内・外の問題両方に対し



春色三十六会席「深川平清」（一蕙斎芳幾画）

て出され、幕府権力立て直しのための強行策、更にあらゆる階層の生活細部にまでわたる儉約令が出されます。その主なものは、

- ①上知令…江戸大坂十里四方の土地を収公し、幕府直轄地に編入。
- ②人返し令…飢饉のため江戸に流入してきた人々を農村へ返し、村々を復興させる。
- ③株仲間解散令…特権的な株仲間を廃止し、自由取引を行わせて物価を下げる。
- ④蛮社の獄…渡辺華山、高野長英らの蘭学者を弾圧する。
- ⑤風俗統制…江戸三座を猿若町（現浅草6丁目）へ強制移転させ、浮世絵・人情本などの出版を統制する。

これら諸法令に対し、庶民のみならず、幕府内部からも批判、反対が相つぎ、幕府は改革の強行をあきらめず。結果として幕府立て直しのための改革が、逆に幕府権力の低下を象徴することになりました。

改革以降の歴史の流れをみると、国内・外の問題の中で、強圧的に力の回復を図る幕府側と、その結果の矛盾から「世直し」に立ち上がる民衆の行動は、明治維新への始動であったともいえます。

### 3.天保期の深川

この時期、深川で起こっていた出来事をみてみましょう。

- 天保2年（1831）「親和染」等、のぼり旗などの文字でも人気のあった書家三井親和83歳にて死去。増林寺（深川2丁目）に葬る。
- 〃 4年（1833）深川花街を取材した人情本、『春色梅暦』『春色辰巳園』を執筆したためながしゆんすい 為永春水死去。
- 〃 6年（1835）深川名物「かりん糖うり」流行。深川六間堀の山口屋吉兵衛が売りはじめたといわれる。
- 〃 7年（1836）深川三十三間堂（現数矢小学校付近）再建される。
- 〃 11年（1840）喜多川守貞が大坂から深川に転居し、『守貞漫稿』を著す。  
・深川島田町（木場）に住む七代目市川團十郎、歌舞伎十八番「勸進帳」初演。
- 〃 12年（1841）矢部定謙、町奉行を免じられ、桑名藩に預けられる。

矢部定謙は改革時の町奉行として、もう1人の町奉行遠山左衛門尉景元と共に、老中水野忠邦ら改革推進派から江戸市政を守り、当時の人々から厚く信頼されていました。しかし、このことが、改革の妨げと考えられ、老中水野の収賄を摘発したことがきっかけとなり、この年桑名藩に預けられ、自己の身の潔白を証明するため絶食死しました。



矢部家の墓（浄心寺）

浄心寺（平野2丁目）にはその父・矢部定令の墓があります。この事件は、当時の落首にも多く取り上げられました。

矢部はちる芝居はひける世の中に何とて

町は苦しがるらん（『文政外記天保改革雑談』）

なお、老中水野の信任を得、幕府財政立て直しのため貨幣改鋳にあたった、金座年寄役後藤三右衛門光亨の墓が雲光院（三好2丁目）にあります。光亨は水野失脚後、斬罪に処せられました。

- 天保14年（1843）矢部定謙後任の町奉行鳥居耀蔵の命により、富岡八幡境内の二軒茶屋、深川永代寺門前「平清」等の料理屋が取り締まりをうける。

他にはこの頃、魚市場が深川蛤町（永代2丁目）にあり、青柳のむきみが深川名物といわれ、又、江戸初日の出参拝地として洲崎（東陽1丁目周辺）が有名となっていました。

### 4.江戸から明治へ

安政元年（1854）、ペリー来航のための江戸湾近辺の警備が深川でもはじめられました。隅田川河口の守備は特に厳重で、深川洲崎には桑名藩主松平越中守が警備にあたり、江戸防備の第一線となりました。開国から明治維新へと、世の中は大きく変わろうとしています。